

かまくら

横手は雪国の中でも有数の豪雪地帯です。この横手で2月15日、16日に開催される「かまくら」は、雪室の中に神座を設けて水神様を祀り、中で子どもたちが甘酒を飲んだりお餅を焼いたりして遊ぶ民俗行事で、およそ450年の歴史があります。

藩政の頃、武家の住んでいる内町では、旧暦1月14日の夜、四角い雪の壁を作り、その中に門松やしめ縄などを入れ、お神酒や餅を供えてから燃やし、災難を除き子どもの無事成長を祈った左義長のかまくらを作り、鎌倉大明神を祀っていました。一方、

商人の住んでいる外町では、町内の井戸のそばに雪穴を作り、水神様(おしずの神さん)を祀り、良い水に恵まれるようにと祈りました。これに、当時から子どもたちの遊び

の中にあつた雪遊びが混ざり、さまざまな変遷を経て、現在の「かまくら」になったと伝えられています。



静



ぼんでん

「ぼんでん(梵天)」とは、神霊が降臨するための標示物・依代(よりしろ)としての大きな御幣形のものを意味しています。五穀豊穰、家内安全、商売繁盛など様々な願いを込めて毎年2月17日の旭岡山神社初縁日に奉納します。

横手のぼんでんは、他に類を見ないほどの大きさ、優美さ、そして豪華さが特徴です。竿の長さは約4.3m。その先に直径約90cmの円筒形の竹籠を取り付け、色鮮やかな「さがり」(布地や麻糸等)を垂らし、しめ縄や紙垂、鉢巻を取り付け、さらに干支、人形等の意匠を凝らした頭飾りをのせます。全体の大きさは5mを優に超え、その重さは30kg以上にもなります。

動

